

スポーツ選手のセカンドキャリアについて

早稲田大学 武藤ゼミ B

○小池 紗和子 野坂悠太 高木翼 堂本大輝 浅野桃子

1. 研究目的

2020年のオリンピックの開催都市が東京に決定し、スポーツへの注目度がさらに高まっている。日本が2020年のオリンピックで活躍するためには、選手がより競技に集中することが必要である。そのため、選手の競技引退後の人生をサポートする制度を強化しなければならない。そこで、我々はスポーツ選手のセカンドキャリア問題を取り上げ、現状を分析し、具体的な改善策を提示する。

2. セカンドキャリア問題

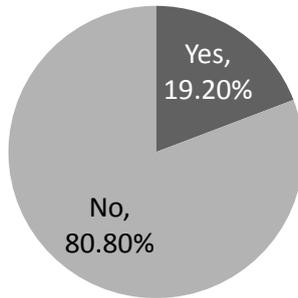
一般的に、セカンドキャリアとは「中高年の定年退職後や女性の子育て後、またはプロスポーツ選手の引退後の、『第二の人生における職業』」のことをいう。長い人生の一時期をトップレベルの競技に集中できる人は多くはなく、選ばれた人間だけの特権である。一見、華やかに見える一流のスポーツ選手の競技生活は多くの人が羨むことであろう。しかし、スポーツ選手の競技生活はそう長く続かない。競技生活がどんなに充実していても競技だけに集中することが、引退後の人生のリスクになるのでは元も子もない。

3. 現状

セカンドキャリアに関するアンケート（平成25年9月）を早稲田大学ア式蹴球部26人に対して行ったところ、「現在行っているスポーツを大学卒業後に続ける」と答えた人が5人（19.2%）で、「続けない」と答えた人が21人（80.8%）であった。また、「続けない」と答えた理由として「安定していないから」、「将来を考えて安定した職業に就きたいから」、「保証が無いから」など、将来への不安感が読み取れる回答が多かった。

また、株式会社 Keep up（アスリートエール実行委員会）が行ったセカンドキャリアに関するアンケート（2012年4月）（アスリート支援サービスサイト「アスリートエール」登録選手441名（回答136名）を対象）では、「現役引退後の生活に不安を持っている」と答えた人が52人（38.2%）、「不安を持っていない」と答えた人が84人（61.8%）であった。また、「不安を持っている」と答えた理由として「すでに37歳で引退した頃には求人すらなさそう」や「家族を養えるような安定した収入を得られるかどうか不安」等のセカンドキャリアに対しての不安が多かった。

現在のスポーツを大学卒業後も続ける



現役引退後の生活に不安を持っている

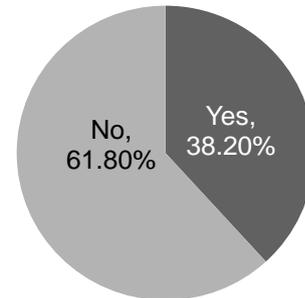


図 1

4. 提案

4.1. スポーツ選手支援社会保険制度の導入

● 概要

プロスポーツにおいてプロ契約をする全てのスポーツ選手に、スポーツ選手支援社会保険に契約を打診する。スポーツ選手支援社会保険とは、契約したスポーツ選手に月々いくらかの保険料を支払ってもらい、その保険料収入を活用して戦力外通告および引退する選手のために活用する仕組みである。

● 目的・効用

- ① スポーツ選手が思いがけない戦力外通告によって路頭に迷うことを防ぐ
- ② 保険料収入の活用方法次第では、セカンドキャリアとしてやりたい仕事の専門知識を身につけ、新たな仕事の手助けとなる。例えば解説者、スポーツキャスター向けの報道コース、監督、コーチングスタッフ向けの指導者コース、自営業、スポーツビジネスマン向けのビジネスコース等の学科を設けたスポーツ選手のセカンドキャリア向けの学校を設立、または提携して契約したスポーツ選手は無償または格安で優先的に入学できる。
- ③ 企業やクラブにとってもプロスポーツという厳しい世界に進む事が出来た精神的、肉体的にもポテンシャルがある人材であり、かつ専門知識も備わった即戦力で活躍する人材を獲得する事が出来る。
スポーツ選手、スポーツの価値向上につながるため各種スポーツの普及にもつながる。

● 具体例

- ① 30歳以下のスポーツ選手全員に、月々一定の補助金を支払い、提携している大学の通信教育過程に通ってもらう。
- ② ①を差し引いた余剰金は、戦力外通告をうけたり、怪我や病気で引退せざるをえなくなった選手に充てる。

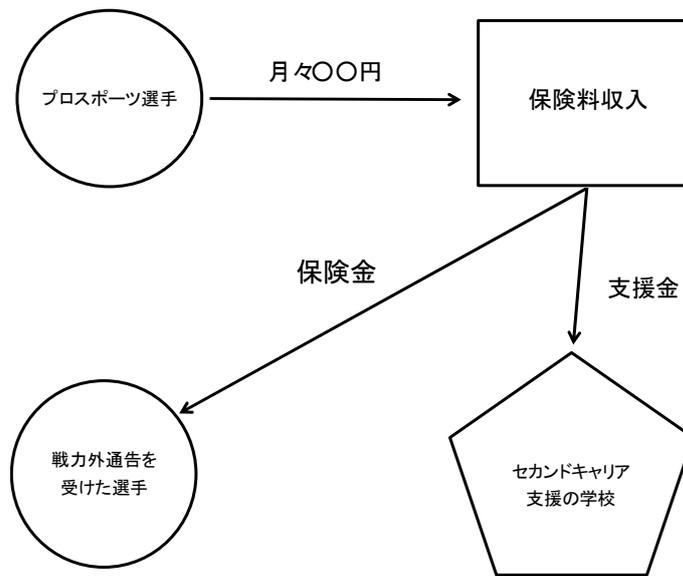


図2 スポーツ選手支援社会保険制度例

4.2. 保険適用による通信教育制度の普及

日本大学の通信教育過程を例に、4年通った場合の月々の学費を計算すると、
 入学金等:30,000円

授業料等:99,000円/年より、 $(30,000+99,000 \times 4) \div 48=8,875$ 円となる。

これをもとに、先述した保険制度で集めた資金から1人あたり約9,000円を各大学に月々支払うことで、スポーツ選手を受け入れてもらうという契約を提案する。支給される保険金をスポーツ選手本人へ還元せず、直接大学へ支払う仕組みにすることにより、スポーツ選手が怠け、大学へ行かないという状況を防ぐ。

5. まとめ

インターネットが発達している今日、過去には存在しなかったeスクールが発展している。時間の都合上、大学に通えなかったスポーツ選手達もeスクールを活用することで、社会人として生きていくためのスキルを磨くことができる。しかし、本来スポーツ選手はセカンドキャリアを見据えて競技生活を過ごしているわけではない。そこで、プロ契約時に保険制度があれば否応なく加盟することとなり、選手の自尊心を傷つけることなくセカンドキャリアに向けてのあしがかりを作ることができる。

これからの日本のスポーツ界の発展において、セカンドキャリアの基盤を固めることが必要不可欠である。

<資料・文献>

・人事労務用語辞典

・通信教育過程の学費一覧

<http://www.uce.or.jp/faq/guide.08-09.pdf>

・トップアスリートのためのセカンドキャリア Web

<http://www.shp.taiiku.otsuka.tsukuba.ac.jp/>

・Dream News マイナーアスリート「セカンドキャリアの実態」アンケート調査実施

<http://www.dreamnews.jp/press>